

学校の教育目標

伝統のほこりをもつ 強く正しい興文の子
よく考える子 仲よくする子 たくましい子 よく働く子 ほこりをもつ子

目指す3つの学校像

誇りと規律のある学校
教職員は、研修校に勤務する自覚をもち、指導力を高めて教職員も児童も誇りをもつ学校づくりをする。
校風（歴史と伝統、礼儀と規律）

安心して通える学校
教職員は人権感覚を磨き、児童のよさを認め励まして、思いやりあふれる学校づくりをする。
挨拶と会釈、やさしい心

感動と活力ある学校
教職員は、教科や特別活動などの内容や方法を工夫改善し、感動と活力がある学校づくりをする。
学習、合唱、鼓笛

	よく考える子 知	仲よくする子 徳	たくましい子 よく働く子 体	ほこりをもつ子 自信と愛着
中期的目標	思考力・判断力・表現力の向上を図る指導を通して、児童一人一人に確かな学力を育成する。	道徳や人権同和教育を通して、自己を見つめ、人を思いやる心や自己有用感をもった児童を育てる。	安全教育・健康教育を通して、適切な判断と安全で節度ある行動ができる児童を育てる。	地域の歴史・文化などについて学ぶふるさと学習を通して、地域に誇りと愛着をもつ児童を育てる。
方策	①西濃及び大垣市研修校として研究実践を積み重ね、毎年公表する。 ②全国学力テスト等を利用して、学力を分析・評価して授業改善と指導力の向上を図る。 ③中学年から一部教科担任制、算数少数指導を実施する。	①自分の生き方を見つめて考え、議論する道徳授業を行う。 ②教育活動全体で行う道徳教育を充実させる。 ③児童の内面をつかみ、いじめや不登校を生じない集団づくりを進める。	①危機管理体制を構築し、安全対策・安全管理を徹底する。 ②指導を工夫し、児童の安全意識を高める。 ③清掃活動や体力づくりについて本校モデルをつくる。	①ふるさと大垣・興文を活用し、発達段階に合ったふるさと学習を行う。 ②地域に出かけ地域の方と直接関わる活動を多く仕組む。 ③コミュニティスクールの実施に向けて学校の様子の発信に努める。
30重点目標	仲間と深め合う授業づくりをする。 【研推と教科部会を中心に】	いじめの早期発見と未然防止をする。 【生活指導部会を中心に】	安全に気をつけて生活できるようにする。 【健康安全指導部会を中心に】	地域の人や自然・文化との関わりを深める。 【各学年毎に】
具体的方策	○多様な考えを引き出す発問を工夫する。 ○必然性のある交流を授業に位置付ける。	○児童一人一人のよさを児童に語るようにする。 ○保護者や児童の訴えに素早く対応する。	○登下校や廊下歩行、帰宅後の安全指導にこだわる。 ○「チャレンジスポーツ in ぎふ」に参加して体力向上に努める。	○実際に見聞きする地域探検の活動を多く位置付ける。 ○知ったことや考えたことなどを掲示したり発信したりする活動を行う。
教師自己評価項目	○教科の特性に応じて「考える場」を設けているか。 ○ノートに書いた児童の考えを授業で生かしているか。	○一日一回は会話するなどの子とも関わっているか。 ○互いが納得いくように話し合いをさせているか。	○落ち着いた雰囲気の中で生活させているか。 ○心身を鍛えることを意識して指導しているか。	○総合15時間減の中、総合も大垣科も座学と活動の組み合わせを工夫したか。
評価指標 児童評価項目	◇「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」75%以上（児童アンケート） ◇「授業の中で分からないことがあったらそのままにしない」97%以上（児童アンケート）	◇「学校に行くのは楽しいと思う」90%以上（児童アンケート） ◇「話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている」90%以上（児童アンケート）	◇「交通ルールや学校のきまりを守って生活している」95%以上（児童アンケート） ◇「仲間と一緒に運動することは楽しい」95%以上（児童アンケート）	◇ふるさと大垣科、ふるさと興文（総合）を楽しんでいる児童の割合を70%以上にする。（児童アンケート）

児童会伝統のカギく勢いのある授業 < 響きのある合唱 > 仲間への思いやり < 輝きのある掃除 > 本物のあいさつ >

先生の元気はみんなの元気(本校の働き方改革)

- ・最終退勤時刻を20時をめざす。（「もう何時」の意識化）
- ・会議をさらに厳選する。（運営委員会の縮小、PCの閲覧板を活用、終了時刻の設定）
- ・水水（スイスイ）帰る日を継続する。学期末に全校5時間の日を設ける。
- ・管理職が全体を目配りする。時間を意識した仕事ができるよう勤務時間を表示する。

評価指標
月平均時間外勤務を70時間以内
(次年度60)